

アンコール・ワット西参道修復工事完了

カンボジア王国政府主催 祝賀式典、渡り初め儀式行われる



石澤教授を挨拶する石澤教授(©カンボジア王国政府提供)

日本カンボジア友好70周年を迎えた今年、11月4日にカンボジア・シェムリアップでアンコール・ワットの西参道開通を祝う式典および「渡り初め儀式」が同国政府主催の国家行事として執り行われた。元上智大学長、アジア人材養成研究センター所長の石澤良昭教授を中心とする、本学の33年にわたるカンボジア人の遺跡保存官養成と西参道の修復に国際協力の哲学を掲げ、ソフィア・ミッションとして遺跡保存官の養成と遺跡保存修復を展開してきたこれまでの経緯を国王陛下にお伝えした。そして「何よりも、カンボジアから水や石の問題、保存修復の理念の問題、アンコール王



シハモ二国王陛下の渡り初めをする石澤教授(©カンボジア王国政府提供)

のために、今後の本学とアプサラ機構は、西参道の定期的な保守管理およびカンボジア人遺跡保存官の人材養成支援を継続していく。上智大学とアンコール・ワット西参道修復工事関係者に勳章が授与され、続いて、国王陛下から本学とアプサラ機構の関係者に勳章が授与された。このことから、石澤教授は、内戦で失われたカンボジア人遺跡保存官の人材養成のため、1991年からアプサラ機構の王立芸術大学で考古学、建築

2023年度創立記念行事 創立110年を振り返る

先哲祭ミサ・創立記念プログラム・永年勤続者表彰

今年、本学の創立110周年という節目を祝う「サ・創立記念プログラム」中、11月1日に上智学院 永年勤続者表彰が行われた。学院の一層の発展に向けて、あらためて本学のミッションを再確認する機会となった。

先哲祭ミサ カトリック圏 町聖イグナチオ 教会主聖堂で、サリ・アガステイン神父(上智学院理事長)の

先人の功績をたたえるミサ

「互いを知る、上智を語る、未来を考える」を

先哲祭ミサは、今日の本学の発展の礎となった先人の功績をたたえるために行われる。「わたしたちがFor Others, With Othersの精神をさらに深く身につけ、平和な世界を造ることができるよう」との祈りが捧げられた。また感謝の典礼の奉納祈願では、創立110周年を記念した供え物が捧げられた。

創立記念プログラム

「互いを知る、上智を語る、未来を考える」を述べた。続けて、永年勤続者表彰を受けた。

勤続25年(17人) 服部隆(国文学科)、小倉博孝(フランス文学科)、横山恭子(心理学科)、西澤茂(経営学

科)、谷洋之(イスマニア語学科)、ジェームス・ファーラー(国際教養

科)、岡田邦宏(物質工

学) 矢入郁子(同)、我

勤続15年(25人) 武田なほみ(神学科)、岡田隆(心理学科)、近藤広紀(経済学科)、杉谷陽子(経営学科)、エルウェ・クリーショ(フランス語学

科)、スウェン・サイ(入

学センター)、田畑真白(SFPD推進

室)、伊藤薫江(短期大

学部事務センター)、我

部政貴(目白聖母キャン

パス事務センター)

明(機能創造理工学科)、後藤賢行(同)、桑原英樹(同)、中島俊樹(情報理工

学) 炭親良(同)、川端亮(同)、須田誠一(人事担当理事付)、中

村史子(ソフィア連携

室)、藤原恵(入学生

務グループ)、齊藤枝里

子(学事センター)、進

東恭子(学事センター)

(地域研究専攻)、高野芳恵(学事センター<看護学

科>、鈴木彩子(学事

センター<国際教養

専攻>)、佐藤真知子(入

学センター)、田畑真白(SFPD推進

室)、伊藤薫江(短期大

学部事務センター)、我

今後は、高橋氏、平野氏、およびソフィア後援会会長の川田吉江氏の3人に感謝状が贈呈された。次に、上智学院を代表してサリ・アガステイン理事長が挨拶に立ち、1973年当時の上智学院理事長であるヨゼフ・ピタウ大司教と、理想の女子教育を目指す聖マリア修道女会との運命的な出会いによって上智短期大学が開学したことや、初代ジェラルド・バリー学

長から現在の第8代山本学長まで歴代の学長が進めてきた数々の取り組みを紹介した。そして、これから短期大学の教員は卒業生の中より続けること述べ、50周年を記念する感謝の言葉を締めくくった。

第一部は、永野良博言語科長の総合同会で、シンポジウム「上智大学短期大学のSDGsへの取り組み」を開催した。はじめに、総合人間科学部教育学科の杉村美紀教授が、「持続可能な未来に向けて人々の学びとコミュニケーションの連携」をテーマにパネルディスカッションを行った。第一部、第二部とも盛況のうちに幕を閉じた。

石澤教授の業績と貢献は高く評価され、アジアのノーベル賞とも言われる「フロン・マガサイサイ賞」や「カンボジア王国友好勳章(サハメトレイ Grand Croix)―大十字章」等を受賞している。

石澤教授の業績と貢献は高く評価され、アジアのノーベル賞とも言われる「フロン・マガサイサイ賞」や「カンボジア王国友好勳章(サハメトレイ Grand Croix)―大十字章」等を受賞している。

石澤教授の業績と貢献は高く評価され、アジアのノーベル賞とも言われる「フロン・マガサイサイ賞」や「カンボジア王国友好勳章(サハメトレイ Grand Croix)―大十字章」等を受賞している。

勤続25年、私にとっての上智

文学部国文学科教授 服部隆



学生時代も、教員になつてからも、自分は「上智」に育てられてきた感じがします。本来は、勝手に育たなければならぬのですが、どうしても育てられた部分を確認することができません。この場合の「上智」は、私にとって、上智大学とい

「背中」で説き伏せられていたような感じがします。いつも根気強く見守ってくださっていたわけてすからですね。教員になった私にそんな説得力のある「背中」があるのかどうか、二十五歳経っても、忸怩たる思いばかりです。

「背中」だけではなく、「背中」の向こうにも感じますが、日々の授業のなかで自分はどう対話しているのか、教室で先生の顔を見ながら考える毎日です。

短期大学創立50周年記念式典

過去から現在、未来へと志を受け継ぐ

12月2日、上智大学短期大学が、2012年に現在の短期大学短期大学部に名称変更してからの約10年の歩み振り返った。山本学長は、短期大学部と上智大学の連携強化、教育の質保証推進、サービスマニカに代表される多文化共生力の修得など目標に沿ったさまざまな改革を詳しく説明し、25年度の学生募集停止後も変わることのない水準の教育と支援を行っていくと決意を語った。

来賓として参列した秦野市長の高橋昌和氏、短期大学部ソフィア会長の平野由紀子氏の祝辞に

続いて、高橋氏、平野氏、およびソフィア後援会会長の川田吉江氏の3人に感謝状が贈呈された。次に、上智学院を代表してサリ・アガステイン理事長が挨拶に立ち、1973年当時の上智学院理事長であるヨゼフ・ピタウ大司教と、理想の女子教育を目指す聖マリア修道女会との運命的な出会いによって上智短期大学が開学したことや、初代ジェラルド・バリー学